

## [報告]

血液センターにおける学会認定・  
アフェレーシスナースの活動に関する考察

福岡県赤十字血液センター<sup>1)</sup>、日本赤十字社九州ブロック血液センター<sup>2)</sup>  
梶島フクエ<sup>1)</sup>、田中富美子<sup>1)</sup>、平本睦美<sup>1)</sup>、田代千穂<sup>1)</sup>、式田睦子<sup>1)</sup>、  
山口知子<sup>1)</sup>、岩崎潤子<sup>1)</sup>、石川博徳<sup>2)</sup>、佐川公矯<sup>1)</sup>、松崎浩史<sup>1)</sup>

Consideration for the contribution of Apheresis Nurses qualified  
by the Japan Society of Transfusion Medicine and Cell Therapy  
in Japanese Red Cross Blood Center

*Fukuoka Red Cross Blood Center<sup>1)</sup>, Japanese Red Cross Kyushu Block Blood Center<sup>2)</sup>*  
Fukue Kabashima<sup>1)</sup>, Fumiko Tanaka<sup>1)</sup>, Mutsumi Hiramoto<sup>1)</sup>, Chiho Tashiro<sup>1)</sup>,  
Mutsuko Shikita<sup>1)</sup>, Tomoko Yamaguchi<sup>1)</sup>, Junko Iwasaki<sup>1)</sup>, Hironori Ishikawa<sup>2)</sup>,  
Kimitaka Sagawa<sup>1)</sup> and Koji Matsuzaki<sup>1)</sup>

## 抄 録

日本輸血・細胞治療学会は2010年に学会認定・アフェレーシスナース制度を開始した。今回、九州8県の血液センターで2013年までに本認定を取得した22名を対象に、認定取得後の活動状況等を調査し、今後の活動の課題について考察した。調査はアンケート方式で行い、21名から回答を得た。初回調査では、認定取得者には経験豊富な看護師が多く、認定取得後は学会等への参加機会が増え、業務上の疑問が解決したなどの回答があった。しかし、活動の方針が明確でないという意見も多く、認定取得で得た知識や経験が必ずしも生かされていないことも分かった。そこで、認定取得者が希望する活動内容や情報交換の場の必要性を尋ね、血液センター共通イントラネットで勉強会の報告や資料を提供したが、個人で活動するのには限界があった。今後、ブロック血液センターを中心に認定取得者が連携を取り、看護師のスキルアップを担うような活動体制が構築できればよいと考える。

Key words: qualified apheresis nurse, apheresis, nurse education

## 【はじめに】

日本輸血・細胞治療学会では、アフェレーシスに関する正しい知識習得と看護能力の向上を推進し、安全なアフェレーシスに寄与することができる看護師を育成することを目的に、2010年に学会認定・アフェレーシスナース（以下、アフェレ

ーシスナース）制度を導入した<sup>1)</sup>。

九州ブロック血液センターでは、看護師のスキルアップの機会として、血液センター看護師のアフェレーシスナース認定取得を積極的に推奨し、2011年から2013年の間に22名が認定を取得し、福岡県赤十字血液センター（以下、福岡センター）

では、7名が認定を取得した。認定取得を機に、資格取得を今後の業務に活かしていく方法を検討したいと考え、2011年から2013年までの間に九州8県の血液センターに所属するアフエーシスナース認定取得者に対して、認定取得前後の状況や血液センター内で実施したい活動などをアンケート方式で調査した。福岡センターでの2年間の活動内容も踏まえ、今後の課題について考察したので報告する。

### 【対象と方法】

対象は、九州8県の血液センターで2011年から2013年までに本認定を取得した22名で、調査は無記名のアンケート方式とし、21名から回答を得た。

初回の調査では、認定取得者の背景として、年齢、血液センター勤続年数を尋ねた。また、認定取得の効果を調べるため、認定取得前後の学会・勉強会・研修会への参加状況、受験の動機、認定取得前後でのアフエーシス業務の疑問点の改善の有無、認定取得後の活動状況等を尋ねた。

2回目の調査では、アフエーシスナース認定取得後どのような活動を希望しているのか、また、認定取得者間の意見交換や情報提供の場の必要性についての意見を募った。希望する活動内容は下記の①～⑧の項目から選択し、自由記述も可とした。①テーマを決めて勉強会を開く、②成分採血指導、③質問箱を設置し、日常業務(採血全般)で困ったこと、疑問点・問題点を聞いて検討し指導する、④新人教育、⑤アフエーシスナース認定試験受験時の指導、⑥インシデント事例を検討し、注意事項や原則を再確認する、⑦取得していない人に、アフエーシスナース制度の説明会を行う、⑧その他。

認定取得者からは、情報共有の場を望む意見が多かったため、2014年10月に認定取得者を対象とした血液センター共通イントラネットのCybozugaroon MYスペースに「九州管内アフエーシスナース」を開設し、情報交換の場とした。福岡センター採血課内では、アフエーシスナースが講師となり定期研修会に合わせて「10分間スタディー」という勉強会を実施した。内容は、成

分採血装置、インシデント、その他スタッフからの要望により選択した。この勉強会の報告や資料の提供、参加した学会の報告、日常業務での困ったことやインシデント事例とその解決方法等は、情報交換の場「九州管内アフエーシスナース」を通じて、九州ブロック内のアフエーシスナースに提供した。

### 【結 果】

九州8県の血液センターには、ほぼ均等に複数名の認定取得者がいて、血液センター勤続年数は10年未満2名、10年～20年未満9名、20年以上10名と経験豊富な看護師が大半であった(図1)。

初回の調査では、学会・勉強会・研修会への参加者は、認定取得前後で6名から20名に増加していた(図2)。また、最も多かった受験の動機は自らの「スキルアップ」で、認定取得前には約半数の看護師にアフエーシス業務に関する疑問点があったが、認定取得後にはその70%が解決していた(図3)。そのほか、認定を取得して最も良かったことは「知識が身に付き視野が広がった」ことで、認定取得後に最もしたいことは知識や経験を「日常業務に生かしたい」であった。認定取得後の活動は21名中11名が行っていなかったが、そのうち7名は「機会があれば活動したい」と回答した(図4)。

次の調査では情報交換の場があることを15名が希望し、認定取得者のための定期的な勉強会や「具体的な活動方針が欲しい」との意見がある一方、各血液センターには「個別の事情があるので統一した活動は難しい」との意見や、認定を取得する意義についての疑問も少なからずあった(表1)。また、希望する活動は、「テーマを決めて勉強会を開く」という意見が最も多かった。

その後、福岡センター採血課での「10分間スタディー」の報告等を、Cybozugaroon MYスペースを利用して認定取得者に配信すると、自分が所属する血液センターでも勉強会を開催したいと、資料や情報の提供を希望する連絡もあった。しかし、認定取得者相互の意見交換が行われるには至っていない。

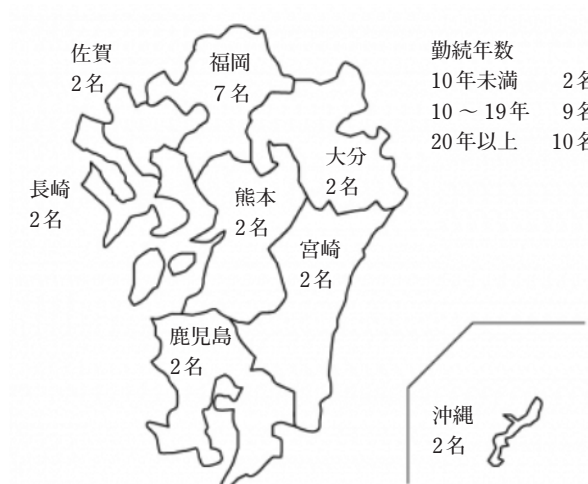


図1 県別認定取得者数と血液センター勤務年数

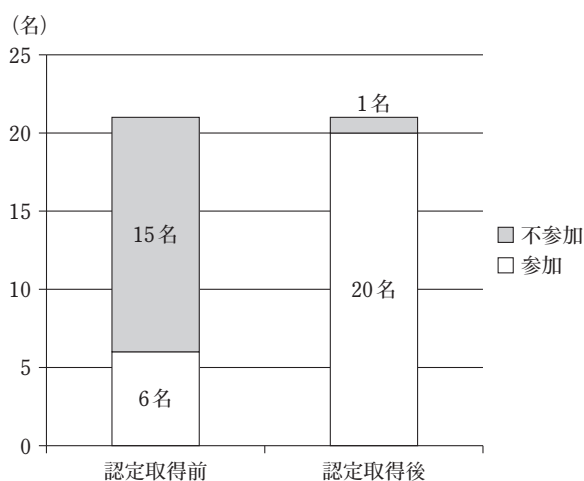


図2 学会等への参加状況

## 【考 察】

今回の調査では、認定取得後は学会等に参加する機会が増え、最新の輸血医療や安全な採血に関する知識の習得に役立っていた。また、受験に際してあらためてアフエレーシスに関する学習をすることで日々の業務での疑問点が解決し、スキルアップの効果があった<sup>2)</sup>。このことは、アフエレーシスナース制度を受験することは血液センター

看護師としての質の向上に繋がり、アフエレーシスの安全性をより高める意義があることを示している。そして、認定取得者はこのような経験を他の職員と共有することを望んでいるが、そのための何らかの活動を行っているのは半数以下で、必ずしも具体的な活動に結びついていなかった。活動をしていない認定取得者は「機会があれば活動したい」と希望しており、そのような意欲が実現さ

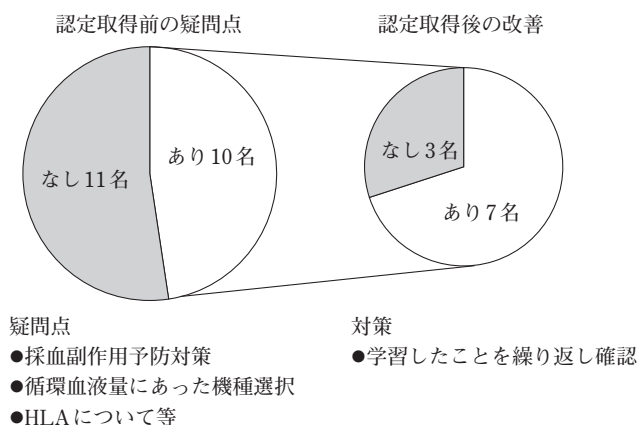


図3 アフェレーシス業務の疑問点の改善

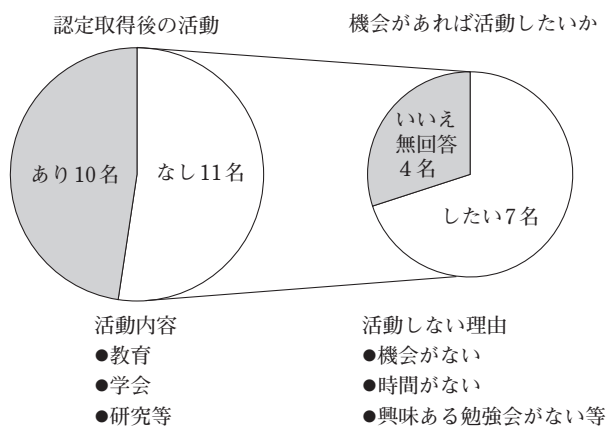


図4 認定取得後の活動状況

れる機会の提供が望まれる。

アフェレーシスナース認定取得者の活動事例として、岡山県赤十字血液センターの牧野、青井らは、採血課内看護師を対象とした認定取得者による学習会や業者、医師、薬剤師による学習会を実施している<sup>2), 3)</sup>。福岡センター採血課でも、2015年から定期研修会の時に「10分間スタディー」として成分採血装置やインシデント事例などのテーマで勉強会を開催している。また、2016年には学術課が医療機関の看護師を対象に自己血採血の消毒法のセミナーを企画した際に、認定取得者が講義や技術指導を担当した。認定取得者は血液セ

ンター勤務の長い経験豊富な看護師が多く、採血業に関する講習やセミナーなど、アフェレーシス業務に限らないさまざまな活動も可能である<sup>4)</sup>。

アンケートを通して認定取得者が資格取得を今後の業務に活かしたいと考える一方で、具体的な活動を行っているのは半数以下であることが分かった。また、自分が所属する血液センターで活動していくために、他県の血液センターの認定取得者との情報共有の場を望む声も多く聞かれた。現在、活動をしていない認定取得者であっても「機会があれば活動したい」と希望しており、そのような意欲が実現される機会の提供が望まれる。

表 1 認定取得者間の情報交換の場の設定について

あったらよい(15名)

- ◆定期的な勉強会・研修会などの集合研修をして欲しい
- ◆具体的な活動方針が欲しい
- ◆情報交換で不安を取り除きたい
- ◆これらの活動にブロック血液センターも関与して欲しい
- ◆各血液センターの勉強会等共有した事を参考にして、スタッフの知識向上に役立てたい

なくてもよい、わからない(6名)

- ◆情報の共有はいいと思うが、統括するのは大変ではないか
- ◆個人的な情報交換では、活動に個人差があり、血液センターによっても温度差がある
- ◆病院との繋がりがなければ資格は血液センター内では役に立たない

今後、認定取得者が行う活動の課題として、「具体的な活動の方針が明確でない」との意見が多数あり、活動内容や方針を明確にする必要がある。また、認定取得者が個人で活動することは難しく、ブロック血液センター内の認定取得者が連携を取って勉強会やミーティングを開催し、さらに認定取得者が核となって血液センターに勤務する看護師のスキルアップを担う、組織的な活動体制が構築できればよいと考える。

### 【結 語】

九州8県には各県に学会認定・アフエレーシスナース制度の認定取得者がほぼ均等に在籍している。認定取得者は自らの知識や経験を活かしたいと思っているが、その方法に悩んでいる。そこで、認定取得者を核とした看護師のスキルアップを担う組織的な活動体制ができればよいと考える。

この論文の要旨は、第38回日本事業学会総会(2014年10月広島)にて発表した。

### 文 献

- 1) 池田和真, 他: 日本輸血・細胞治療学会による学会認定・アフエレーシスナース制度導入, 日本輸血細胞治療学会誌, 61(6): 567-570, 2015
- 2) 青井あゆみ, 他: 「学会認定アフエレーシスナース」資格試験の経験, 血液事業, 36(2): 549, 2013
- 3) 牧野志保, 他: 血液センターにおける学会認定・アフエレーシスナースの役割, 日本輸血細胞治療学会誌, 62(3): 615-618, 2016
- 4) 血液事業本部: 自己血輸血協力要綱の改定について, 血製第80号, 平成25年4月9日